

本音の コラム



佐藤 優

旧ソ連の国内パスポートには民族籍が記入されていた。国籍はソ連だが民族籍はロシア人、タタール人、ユダヤ人、ドイツ人などさまざまに分かれていた。現在のロシアに国内パスポートはないが、国籍はロシアだが、民族籍についてはそれぞれの人の自己意識を尊重するのがロシア国家と国民のコンセンサスだ。

日本でも、国籍は日本だがエスニック(民族的)、文化的には日本人と台湾人(中国人)の複合アイデンティティーを持っている人がいるならば、それを認めるのが成熟した市民社会の対応と思う。十八日、民進党の蓮舫代表が、二重国籍で

複合アイデンティティー

ないことを示すために戸籍等の書類の一部を公表したが、とても嫌な感じがする。それは蓮舫氏にも彼女の二重国籍疑惑を提起する人にも、複合アイデンティティーを認めようとする姿勢がうかがえないからだ。国政で活動するからには日本国籍が必要だ。ただし、ルーツを台湾に持つ人に完全な日本人になれと強要するのはおかしい。

日本国籍を持つ筆者は沖縄人と日本人の複合アイデンティティーを持っている。どちらか一つを選べと強制されれば(そういう時代にならないことを望むが)ちゅうちょなく沖縄人を選ぶ。蓮舫氏に台湾人のアイデンティティーを放棄するよう迫る一部の圧力に日本系沖縄人である筆者は強い不快感を覚える。(作家・元外務省主任分析官)

2017.7.21